

社会の一員として、生き生きと自律的に学ぶ生徒の育成

地域の課題に取り組み、活性化を目指す総合的な学習の時間を通して

宮城県石巻市立桃生中学校
教諭 志賀 優香

1 はじめに

変化の激しい現代社会に対応できる資質・能力の育成を目指すために、探究的に学ぶ総合的な学習の時間は、今後ますます重要な役割を果たすものになる。実際に、総合的な学習の時間が、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成、PISA調査(OECD)結果の好成績につながったなど、大きな成果を上げている学校もある一方、ねらいや育てたい力が不明確であったり、学校行事と混同された実践が行われていたり、授業内容改善が必要な学校も多い現状である。

本校においても、総合的な学習の時間の活動内容が、学校行事や体験学習そのものに向けての準備・振り返りの活動が主であった。教員が与えた小さなテーマの中で活動する姿が目立ち、実社会や実生活の中から自分たちで課題を見つけ、解決する機会は少なかったように思える。また、改善を求められている探究プロセスの「整理・分析」や「まとめ・表現」においても、作業化していることが問題であった。

これらを解決するためには、第一に学校、地域、社会で、「誰かのために役立つことができた」と感じる達成感や有用性を味わわせるテーマが必要であると強く感じていた。新学習指導要領で重要となる「社会に開かれた教育課程」の実現においても、実社会のつながりの中での学びは、生徒自身がより良い社会づくりに積極的に貢献することの楽しさや喜びを知ることができる。このような社会参画を通じた学びを体験することで、生徒は達成感を味わい、自らが進んで粘り強く、学習する「自律的な学び」に大きくつながると考える。

桃生地区は、日頃から学校、家庭、地域が連携・協力し、子どもたちを育てていこうとする雰囲気が見られる。そこで、生徒の地元への愛着や結びつきの強さを生かした実社会・実生活にかかる課題を取り扱い、学習を進めていったところ、生徒が持つ発想力の豊かさ、意欲的に活動する姿など、生徒の大いなる可能性と成長を見ることができた。また、今回の取組では、日頃、生徒が文章を書いたり、発表したりする際、自分本位で一方通行のコミュニケーションになってしま

うことが多い実情から、相手意識や目的意識を持ってまとめ・表現する言語活動にも力を入れた。

本実践では、生徒が自分たちの住む地域と自分の将来の姿を見据え、地域課題の解決に向けて取り組んだ総合的な学習の時間の実践内容を述べていく。

2 研究目標

地域の課題に取り組み、活性化を目指す総合的な学習の時間を通して、社会の一員として、生き生きと自律的に学ぶ生徒を育成することを明らかにする。

3 経緯

筆者が一昨年度2学年を担当していた際、道徳科の授業で「自分たちの郷土の良さをあげ、郷土のために自分ができること」について話し合い活動を行った。その際、筆者の予想を超える多くの町の良さと町を発展させるためのアイデアが出た。また、英語科「桃生町に来る新しいA L Tへ、観光冊子を制作しよう」をテーマに取り組んだ町の紹介文では、町の自然や特産品、伝統芸能など、懸命にその良さを相手に伝えようとする姿が印象的であった。これらの授業の生徒の取組から、総合的な学習の時間のテーマを「桃生町を活性化するための実践的な活動」と位置付けることで、実社会とのつながりを生かし、生徒の学びをより深めたり広げたりすることができると考えた。

4 実践

(1) 中学生でもできる！皆でつくる桃生町を活性化するためのパンフレット制作開始

① 町の課題と良さから新たなアイデアを出す

「町の課題である桃生町の人口減少の原因」「町の良さ」「町の人口・観光客の集客増加を目指し活気ある町にするためのアイデア」を一人ひとりに考えさせた。町の資源を生かしたイベントの開催、専門店や飲食店の出店など、魅力溢れるアイデアが多数あった。生徒全員の考えを集約し「中学生にもできることは何か」という視点で話し合わせると「まだ桃生町の良さが発

信じきれていない」「ここに書いてある良さをSNSや観光パンフレットなどでPRすればよいのでは」という意見が挙がった。その結果、桃生町の良さを詰め込んだパンフレットを学年全員で制作し、宮城県内の施設、修学旅行先である東京で配布することを決めた。

② 記事の内容決定・情報収集のため取材に向かう

キャリア教育の視点も含め、生徒が担当する記事は、図(3)のように修学旅行で実施する企業訪問の職種と関連させるようにした。



(図1：取材依頼をする姿)

まず、企業訪問班でどのような記事を書くのかアイデアを出し合った。町の特産品・名産品に関する記事を担当した生徒であれば「きびだんご」「スリムねぎ」「きなこパン」「桃生米」「ガーベラ」など生徒自身で具体的な内容を決めた。次に、個



(図2：担当者へ取材する姿)

人でインターネットでの検索や家族へのインタビューを行い、記事に必要な情報を集め、企業訪問班内で共有した。その後、一人一記事になるように役割分担を行い、より具体性のある記事を書き上げるために、担当記事と関連のある町の事業所へ取材を行った。取材では、個人で考え企業訪問班で再度検討した質問項目を基に話を聞いたり、記事に掲載する写真も撮ったりした。

職種	パンフレット内容
市役所・警察・消防	歴史・地理・生活・子育て・未来設計
食品	名産品・特産品・特産品を使ったレシピ紹介
スポーツ	スポーツ施設・地域スポーツ・部活動紹介
音楽	はねこ踊り(音楽・歴史・踊り・服装)紹介
教育	町の幼稚園・小学校・中学校の取組
医療	地域医療(内科, 小児科, 眼科, 歯科)紹介・桃生に住む人の健康
出版	町の見どころ特集(おすすめ1日プラン)
自動車	桃生町までのアクセス・地域のバス会社紹介
イラスト	パンフレットの表裏紙・ロゴ作成
ゲーム	桃生町の良さを紹介するすごろく作成

(図3：企業訪問の職種とパンフレット内容の関連)

③ 多くの人に読んでもらうための記事を作成する

自分で調べた内容や事業所の取材内容を基に、下書きを手書きで行い、パワーポイントで記事を作成した。その際、「相手が読みやすい、読んでみたい」と思わせるための注意点、必要なポイントは何か考えさせ「文

字数が多すぎる記事は避ける」「見出しや構成を工夫する」「写真やイラストを挿入する」ことを皆で決めた。



(図4：パンフレットの一人一記事例)

④ 函館市に桃生町を皆でPR！パンフレット配布へ一人一人が仕上げた記事は、教員によって編集され、一つのパンフレットとなった。完成した冊子を手にとった生徒は「すごい」と声を上げ、達成感を味わうことができた。修学旅行先は、新型コロナウイルス感染症対策のため、当初の計画であった東京から北海道函館市へ変更となった。パンフレットは、函館市内の体験学習先や自主研修で生徒が訪れた飲食店にて、生徒がこれまでの活動の経緯を伝え、配布した。パンフレットに目を通した人々が「いつか桃生町に行ってみよう」「とてもすてきなところだね」と話していたと生徒から喜びの声を聞くことができた。



(図5：函館市でパンフレットを手渡す様子・パンフレット表紙)

(2) 更に桃生町を盛り上げよう！企画書の作成へ

① 私たちの声が届くように…企画案を考える

パンフレット制作を終えた後、桃生町を活性化するための更なる活動として「町を盛り上げるための企画書の作成」を行った。「今回考える企画書は、実現できなくてもできなくとも、中学生が考えた町を活性化するためのアイデアを大人に伝えることで、町の発展に繋がるとも思えない。誰かのアイデアが大人の手で実現するかもしれない。」と伝え、石巻市桃生総合支所の地域振興課へ、完成した企画書を提出することを学習目標とした。企画書の大きなテーマを、「食」「ものづくり」「観光スポット・イベント」「農業・自然・動物」と分けた。生徒は、どのような企画書を書きたいか上記の

テーマから一つ選び、①桃生町の現状分析(良さ・課題) ②企画案のテーマ ③ターゲット層 ④具体的な企画内容 ⑤期待される効果についてまとめた。今回は、パンフレットを制作したときの注意点、必要なポイントを生かし「読み手に興味を持たせる内容であること」そして「読み手を納得させること」に重きを置いた。生徒は読み手を惹きつけ、一目で分かるテーマ名や読み手に「なるほど」と思わせる具体的な説明を書くことを意識しながら、企画書の下書きを完成することができた。

② 修学旅行先で企画書の更なるヒントを得る

修学旅行では、東京で行う予定であった企業訪問から北海道ならではの職業体験、ものづくり体験などへ変更となった。生徒は体験学習先を、(図6)のように企画書のテーマと関連のある研修先から選択した。事前に考えていた生徒の企画内容に、函館市と桃生町を比べて得た「町を活性化するためのヒント」を加え、更に内容を充実させるためである。体験だけで終わるのではなく、函館市の良さを生かしたサービスを提供する人々が、市の活性化のために大切にしていることは何か、そのサービスにはどのような魅力、工夫があるのかという視点を持って、体験活動やインタビューを行うよう指導した。また、修学旅行中は「なぜ函館市には多くの観光客が訪れるのか」という課題を与え、風景、観光名所、飲食店、サービスなど目で見て分かることを考えるようにした。

食べ物で桃生町を活性化したい！を選んだ人

① ピザの専門レストランでお仕事体験
 …おしゃれなカフェや洋食店などで桃生町を盛り上げたい人おすすめ！

② 函館名物の塩ラーメン屋でお仕事体験
 …桃生町の名物を生かした飲食店、新たに名物をつくりたい人おすすめ！

③ 函館を代表する「いか飯」づくり体験

④ 函館名物、松前漬づくり体験
 (函館の前浜で取れた昆布とイカを使った漬物。ごはんにかけて食べると美味しい！)
 …食を生かした体験活動の企画書を書く人おすすめ！

体験活動希望先 1 [] 2 []

**お土産・工芸品・ものづくりで
桃生町を活性化したい！を選んだ人**

① 革細工のお店で商品販売・製作体験

② シルバーアクセサリーのお店で商品販売・製作体験

③ キャンドルショップで商品販売・制作体験

④ スタンドグラスで商品の制作体験

体験活動希望先 1 [] 2 []

(図6：企画書のテーマと体験学習先の関連)

③ 活性化するヒントを基に企画書の再検討と完成へ

修学旅行を終え、個人で記録していた町を活性化するためのヒントを生活班内で共有した。その後、事前に下書きを終えていた企画書を見直し、函館市から得たヒントを取り入れた。例えば、(図7)の「自然の中で寝られる旅館」を企画した生徒は、函館市から得た「昔の建物を大切にする」という活性化のヒントを生

かし、「昔ながらの空き家を旅館にリノベーションする」につなげた。このように、具体的な企画内容が更に深まったり新しいアイデアが生まれたり、修学旅行での学びを生かす活動へ発展していった。

(3) 1年の学びを発表する

① 将来の故郷と自分について考える

この1年間、桃生町を活性化させることをテーマに、上記の(1)(2)の活動を行ってきた。この取組のまとめでは、完成した企画書の発表も含め「将来の桃生町、そして私たち」をタイトルとして「将来、桃生町がどのようになってほしいか」「将来の自分はどのようにしたいか」についてプレゼンテーションを行った。自分自身が夢の実現に向けて今頑張っていることや高校生活で挑戦したいことなども内容に取り入れた。

② プレゼンテーションの作成・発表練習を行う

プレゼンテーションの作成と発表は、2年次で取り組んだ職場体験の発表会以来であった。国語科のプレゼンテーションの基礎の授業と連携し、当時も一方的に話すのではなく、聞き手が「面白い、もっと聞いてみたい」と感じさせるポイントを意識させながら、発表に取り組ませた。昨年度の経験、そして、パンフレット制作や企画書作成の学びを通して、教師側が指導しなくとも、生徒自身で聞き手の立場を意識したプレゼンテーション資料を作成する生徒がほとんどであった。発表練習は、ペア同



士で印刷したプレゼンテーション原稿を用いながら、紙芝居形式で行った。(図8：プレゼンテーション練習風景) 互いのプレゼンテーション資料と発表方法の良い点、

桃生町を活性化するための企画案

<p>桃生町の現状</p> <p>良さ・特産品・伝えたいところ 自然 地域のイベントがある スリムネギ ふれあい祭り はねこ踊り</p>	<p>課題</p> <p>交通機関が少ない 電波が悪い 少子高齢化 商業施設が少ない</p>
--	--

修学旅行先「函館」から得た「町を活性化するためのヒント」

- ・もう一泊してほしい旅
- ・イベントにボランティアとして入る
- ・日本の伝統を函館から広める
- ・昔の建物を大切に ・自然を大切に
- ・地元のものを利用する
- ・外国に発信 ・歴史を大切に

メインテーマ 『自然の中で寝られる旅館』

<ターゲット>
 親子連れの観光客 高齢層(50~70代)

<具体的な企画内容>

- ① 外観を窓にし、虫が多いため周には対策をする
- ② 少し高い場所に建てると、桃生を見渡せる
- ③ 旅館内は、桃生の歴史が見られる
- ④ 桃生町で買い物すると、割引がつく
- ⑤ 桃生茶や、牛、豚などを使った、桃生の料理を考えて作り出す
- ⑥ 夜は宴会ではねこ踊り、月1回、日曜日
- ⑦ 店内には寿の二号店がある
- ⑧ イベントを開催し、ボランティアを募る
- ⑨ 日本の伝統を桃生から広める
- ⑩ 昔の建物をリノベーションし宿泊施設に

期待される効果 町の繁栄、桃生の売名、人口の増加

(図7：桃生町を活性化するための企画書)

改善点を伝える時間を設け「もう少し文字を大きくすると見やすい」「ここはもっと具体的に説明したほうがいいよ」「ポイントをしばって話せると分かりやすい」など、活発にアドバイスが飛び交う姿が見られた。改善点を踏まえ、プレゼンテーションの再編集、発表方法を工夫し、更に異なるペア同士で発表練習を行う活動を繰り返した。この練習により、最初は指定された時間の3分以内で発表できなかった生徒も、話すポイントをしばることでスムーズに発表ができたり、ただ原稿通りに読む傾向だった生徒も、聞き手に複数の質問を加えたり、より分かりやすく聞き手を意識した発表ができるようになった。

③ 皆が成長を感じたプレゼンテーション発表会

何度も発表練習を行ったことにより、本番では堂々と自信を持って発表する生徒がほとんどであった。全体や個人の名前を挙げて問いかけをしたり、クイズ形式で全体に挙手をさせたり、聞き手を話に引き込み、共に考えるプレゼンテーションの発表を行っていた。全員で発表者のプレゼンテーション資料の内容や発表方法を評価し、総合的に高い評価を得た生徒が優勝者となる形をとった。



(図9：プレゼンテーション発表会)

5 研究の成果と課題

(1) 成果

今回、実社会と実生活のつながりを生かすことを課題に、桃生町を活性化するための実践的な活動に取り組んできた。地域で起きている問題に対し、自分で何ができるかを考え実践するといった実社会とつながりの強い学習は、生徒の意欲を大きく掻き立てた。中学生ながらも、社会の一員として地域に貢献する有用性のあるテーマによって、生徒は自身の役割を果たす必要性と重要性を理解し、緊張感を持って真剣に活動に取り組むことができた。また、自ら発信することの喜びや大切さを感じるとともに、自分たちの住む地域に誇りと愛着を持つ機会となった。

また、一つ一つの活動の際、相手の立場を意識して取り組ませることで、生徒が自分の考えを整理・分析し、より分かりやすくまとめようとする姿が以前より見られるようになった。抽象的であった文章が具体化するなど、相手の心に訴えかける表現も見られた。

生徒の振り返りシートから分かるように、今回の学びを将来の自分の生き方につなげていこうとする姿は

生徒の大きな成長である。

「総合的な学習の時間」の振り返りから（一部抜粋）

- 桃生町をPRしたい！と思ってパンフレットを作ったので、すごく楽しかった。桃生で働く人の思いや改めて知ることが多くあり、本当に良い経験だった。
- 自分たちで1から材料を集めてパンフレットの作成は初めての体験でドキドキでした。人にインタビューするのは苦手だが、この経験は今後の人生で役に立てそうです。
- 私は話す力やまとめる力を得ることができたと思いました。発表時に、皆の意見を聞いて面白いなと思いつつ、説得力のあるプレゼンに皆の成長を感じることができた。
- パンフレットのインタビューでは、大人と上手く話すスキルが上達したと思う。将来、社会に出て役に立つので、良い経験になったし、もっと極めたい。
- 前に旅行で函館に行ったときは違う角度で函館の町を見ることができた。違う角度で見ることで様々な発見があり、自分は成長したと思えた。

(2) 課題

より生徒の持つ可能性を引き出し「総合的な学習の時間」を充実させるためには、中学校3年間を見通し、1学年から段階的に繰り返し取り組める系統的なカリキュラム作成が必要であると強く感じた。学年間で関連する学びを明らかにしたり、スモールステップを踏んで新たな学習方法を積み上げたりすることが重要である。そのためには、全教職員がチームとなって、学年を越えた協同による目標の共有化、細かな単元計画を話し合う体制が必要である。また、本研究で力を入れた「相手の立場を考えた表現」については、読みやすいレイアウトや内容の具体化に重きを置いたが、根拠や理由を明確に伝え、より相手を納得させるための表現技術を身に付けるために、各教科との関連を見直し確実に生かしていかなければならない。

最後に、高等学校では、各教科での学習を実社会の課題解決に生かしていく教科横断的な教育（STEAM教育等）が行われている。中学校においても、このような学習が積極的に行われる教育課程の編成を目指していくことで、子どもたちは各教科で学ぶ知識・技能を習得する意味を理解し、学ぶ過程で物事をより深く考えたり、豊かに表現をすることの良さを知ったり、未来の自分のために、学ぶ楽しさや喜びをあげることができると信じている。

<参考文献>

- 1 『総合的な学習の時間の成果と課題について 教育課程部会資料2-1』（平成30年10月1日）
- 2 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 中学校編』（平成22年11月）